

## 中国における農村小学校美術教育課題とその克服に関する考察

—重慶市の農村教育現場の調査研究を通して—

新潟大学大学院現代社会文化研究科

氏名 HUXI

中国では、「素質教育」の推進に伴い、芸術教育は社会の人々に重視されるようになってきており、中国美術教育も急速に発展されてくる一方である。しかし、中国では、農村部は都市部より経済的にかなり遅れている。この経済面の遅れは教育面においても都市部の学校との間で格差をもたらし、学習を支援する教材、教具などの社会資源が都市部に比較して十分届かない状況にある。従って、都市部での先進的な美術教育は、中国の農村部では、実現しにくいケースが少なくない。この現状のため、中国では、「農村美術教育」は独特な研究課題となっている。

本論の目的は、中国農村部と都市部の教育格差を縮め、農村美術の教育の質を高めることであり、論文の構成は以下の通りである。

序章は、主として中国での「農村美術教育」という課題の紹介及び本論文の目的を説明した。

第 I 章では、フィールドワーク及び文献調査を通して、中国の農村美術教育の現状及び農村の子どもたちの生活の様子を明らかにした。また、現場の教員たちへのインタビューや中国学会での先行研究及び使用している教科書を分析した上で、農村美術教育での問題点（教材不足、教員不足、詰め込み、教師中心主義など）を取り上げた。

第Ⅱ章では、中国本土での2022年版「芸術課程標準」を取り上げ、「芸術課程標準の概要」、「指導思想及び修訂の原則」、「2022年改定の主要な変化」、「義務教育段階での美術のねらい」を分析することを通し、中国美術教育方針を明らかにした。

第Ⅲ章では、農村美術教育での問題点（教師中心主義，臨画主義，画材不足，教師中心及び教科書中心という統治的な教化教育）に対し、「自然主義教育観」、「現代アートの導入」、「不条理と反抗の哲学」という3つの仮説を提出した。また、先行研究及び先行実践を加えながら、農村美術教育への応用について論じた。

第Ⅳ章では、前章までの発想をもとに、中国の農村における美術教育について、『芸術課程標準』及び前章で論述した仮説を巡り、4つの観点（1. 美術教育の環境 2. 美術教育の課題 3. 生徒への評価 4. 授業の方法）から具体策を提案した。

第Ⅴ章では、前章が述べている具体策を巡り、筆者が中国農村美術教育現場に相応しい美術課題（「ミニ案山子を作る」、「落ち葉で楽しむ」、「粘土を楽しむ」）を整理して、農村教育現場の教員と連携して行った美術実践での活動の流れ、教学の活動、評価の観点、メディアの応用について説明した。

終章では、前述した各章のまとめ及び本研究の課題と今後の展望について述べた。